特集　主婦の目で追った　老人問題

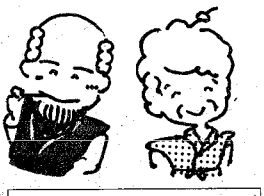
このページは市民の皆さんが企画・編集したものです

このページは、企画・編集を一切、市民相談室主催の「婦人の広場」事業に参加された皆さんが行ったものです。

市民サイドの、より親しみやすい「市報にいがた」をつくるために、下記の四人の皆さんに編集委員になっていただきました。

編集委員

庄山百合子さん（鐙　二）
田村葉子さん（西堀通三）
石高清子さん（大山二）
永野紀子さん（長者町）
（写真右から）



人ごとでない高齢化社会

新潟市の人口は現在約四十七万二千人（昭和六十年の国勢調査）、六十五歳以上のお年寄りが四万六千五百人ほどで、総人口に対する比率は九・八％です。その中で、在宅の寝たきりのお年寄りが六百三十四人います。一人暮らしをしているお年寄りも、多くいることと思います。「もし、一人暮らしのお年寄りが倒れた場合、だれが介護するのか。家族に介護の必要な人がでたときは…。そんなときは、どこに相談したらいいのか」。人ごとではなく自分自身の問題として、急速にやってきた高齢化社会。新潟市は、どのように老人問題に取り組んでいるのか。私たちは、高齢化社会にどのように対処していったらいいのか」。これは、みんなで考えなければならない問題だと思います。そこで、老人福祉行政やボランティア活動の現状などを取材してみました。

施設づくりのほかに　相談・指導も充実

市役所の老人福祉課と保健衛生課におじゃましました。

新潟市内には現在、常時介護を必要とし、家庭での介護が困難なお年寄りを収容する特別養護老人ホームが五カ所あります。新年度は、鳥屋野地区に「おもと園」という施設ができるそうです。

日常生活を営むことに支障のあるお年寄りの家庭には、「老人家庭奉仕員」を派遣しています。現在、二十九人の奉仕員が配置されているそうです。

身体や精神に障害があって、保健所（食生活普及員）の協聞きしました。

お年寄りと若い人の〝和〟に感動

曽野木で給食サービス

ボランティアビューローで、お話を聞きました。

ボランティアビューローに関係しているグループは約百あり、二千人ほどの人が活動しています。ボランティアの奉仕を求める件数は年間百二十件くらいで、そのうち在宅介護は三十件くらいあるそうです。

地域全体の協力と参加で実現

五十七年度にボランティアビューローと市社会福祉協議会が主催した「老人介護ボランティア講座」を受講した皆さんが、地域のお年寄りの力になりたいという願いから、保健所（食生活普及員）の協力を得て「老人給食サービス」を開始しました。その後、五十九年度から曽野木地区の婦人民生委員、自治会婦人部、農村婦人部、地域ボランティア「七味の会」公民館など地元の皆さんが中心となって継続的に実施されています。常時四十人くらいのメンバー（三十代から六十代と幅広く）で、一人暮らし老人などを対象に、今まで六回実施したそうです。

鐘木会館で会食後、ボランティアの人たちと一緒にレクリエーションなどを楽しみ、有意義な一日を過しており、また、お年寄りも指折り数えて楽しみに待つこのごろだとお聞きしました。

地域みんなの知恵を出し合って

活動の参加者の一人は「限られた人だけでなく多くの人に参加してただき、沢山の知恵を出し合ってより良いものにしていきたい」と話してくださいました。

人と人との出会い、お年寄りと若い人たちの〝和〟を大切にし、〝しあわせ〟を分かち合っている光景に、私たちはとても感動しました。

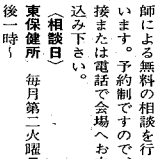
今年十月から来年三月まで、月一回の割合で実施する予定になっています。「内容もそのつど考え、より良いものにしていきたい。一、二月は雪が多く、会館までの交通が不便なため、一軒一軒に宅配給食を考えている」とのことでした。地元のボランティアの皆さんの細やかな気くばりには、心にしみる暖かなものを感じさせていただきました。

ところで、市社会福祉協議会の「地域在宅福祉モデル地区」に曽野木、南万代の二カ所が指定されました。両地区では、給食サービスのほかにも、お年寄りの日常の話し相手となる「友愛訪問」を実施しているそうです。

地域在宅福祉モデル地区に指定

なごやかな会食風景（鐘木会館で）

寝たきりになったら…



寝たきりの人の介護方法に困っている家庭にも、保健所から看護婦が出向き「訪問指導」を行っています。家庭でお年寄りを介護している人のために、このような相談する場が身近にあるのです。ひとりで悩まず、相談したらいかがでしょうか。

◇　◇　◇

老人性神経症、ボケなどでお困りの方やご家族のために、毎月一回、保健所で専門の医師による無料の相談を行っています。予約制ですので、直接または電話で会場へお申し込み下さい。

（相談日）

東保健所　毎月第二火曜日午後一時～

西保健所　毎月第三水曜日午後一時～

（申し込み・問い合わせ）

東保健所　☎243－五三一一

西保健所　☎266－五一七一

保健所では「老人精神衛生相談」を実施していて、痴ほう性老人に関する相談を東保健所では毎月第二火曜日、西保健所では毎月第三水曜日に行っています。

主婦代行業が老人介護

女性40人でボランティア・労力銀行

ご存じですかボランティア・労力銀行。

ボランティア活動を行うほか、会員同士で労力提供した時間を点数化して蓄え、必要なときに点数分の世話を受けられる女性会員による全国組織です。

新潟支部は十年前に設立し、市内を南、中央、西の三地区に分けて、主婦四十人の会員で活動中です。

会員には月二時間以上のボランティア活動が決められ、施設の手伝いや手作りエプロンの寄付などを行っています。

労力の提供は会員同士一時間一点の単位で労力を交換し、点数を蓄えて不時の事態に備えています。点数の利用は、本人のほか、配偶者、親、子供、兄弟、恩師などのためにも使えます。

今は会員が若いので奉仕活動が少なく、口コミで準会員（六十歳以上で介護を希望する人、男女を問わず）を募集しています。なるべく地域ごとに活動しようと、月一回会員の家庭で「例会」を開いているとのことでした。

独身者などに家事サービスをする「主婦代行業」が、数年前から話題になっています。

新潟市内には、老人介護も行っている主婦代行業がいくつかあり、最近マスコミで取り上げられました。

その中には、二十歳代の女性だけで営業しているところもあります。そこでは、若手夫婦が共働きのため、昼間だけ一人暮らしになるお年寄りの話し相手や、病院への付き添いなどを行っているそうです。

若い人たちの発想にびっくりしました。

主婦の手で〝心の和〟ある地域づくり

取材を終えて

私たち主婦四人は八、九月の二カ月をかけ、老人福祉行政やボランティア活動の現状など「老人問題」を取材しました。

それは、これから到来する〝本格的な高齢化社会〟を自分自身の問題として受けとめていると同時に、二十代や三十代の若い人たちからも、もっと「老人問題」に関心を持ってもらいたいという理由からでした。

痴ほう性老人のこと、「一人暮らしのお年寄りが、死後一週間も過ぎて発見された」などの話題がマスコミで取り上げられることがあります。

そんなニュースを耳にすると、とても悲しくなり、考えさせられた気がします。

「隣は何をする人ぞ」ではなく、〝お年寄りと若い人の和のある地域〟を私たち主婦が声を出し、私たち自身の手でつくり上げていかなければ…と思いました。

「高齢化社会にどう生きる…」。

それは、私たち主婦の〝婦人問題〟なのかもしれません。そして、現代社会に生きている人みんなが、真剣に考えていかなければならないことだと思います。

今回の取材を通じ、老人介護のあり方を改めて